

殿様「それ、あのかんばんを見よ。みごとに字で書いてあるぞ。あの店で、いっぶくすることにしようではないか。」

けらい「はい、おとのさま。ちょうど昼どきでございますな。」

そばやは、りっぱなみなのさむらいが、加賀のとのさまだと知り、たいそうおどろきました。そして、かんばんをかけて、ほんとうに良かったと思いました。

⑨ そばを食べ終えたとのさまは、そばやの主人に、こんなことを言いました。

殿様「おいしいそばであったぞ。ここへ寄ってよかった。」

主人「ありがとうございます。ほめていただいて、うれしいです。」



殿様「ところで、この店のかんばんには、みごとに字で書いてあるな。すまんが、あれをゆずってくれなにか。礼は、とらずぞ。」

たのまれた主人は、びっくりしました。そして、ちよつとどうしようかと、まよいました。しかし、『そうだ、もう一度、先生にお願いして書いてもらえばいいか』と、考えました。

主人「はい、おとのさま。おゆずりしましょう。」

そう答えると、とのさまは、たいそう喜んで、そばやの主人に、たくさんのお金をお礼として、わたしました。

⑩ そばやの主人は、うきうきして、もう一度かんばんを書いてもらうため、先生の家に行きました。

主人「先生、すみませんが、もう一度かんばんを書いていただけませんか。」

先生「何か、ぐあいのわるいことがあったのですか。」

たずねられた主人は、そのわけをここにこしながら、話しました。

主人「それで、おとのさまは、たいそう喜んで、私にたくさんのお金をくださいました。」

先生「ほう、それは良かったですね。」

主人「そこで、もう一度、先生にかんばんを書いていただきたくないので、

お願いにまいりました。」

先生「そうですねか……。ちよつと、こちらに来てごらん下さい。おまえさんにみせたいものが、ありますよ。」

そう言つて、おしれの方の案内しました。

⑪ そばやの主人は、何を見せてく



ださるのだろうと、ふしぎに思つてついていきました。先生は、おしれから、はんびつをだしました。

主人「先生、この箱には、何が入っているのですか。」

先生「おまえさんに、見せたいと思うものですよ。」

先生は、はんびつのふたをゆつくりと開けました。

主人は、びっくりしました。中に

は、そば屋のかんばんを書くために練習した字が、いっばいつまっていたのです。

主人は、『先生は、こんなにもたくさん練習をして、あんなみごとなかんばんを書いてくださったのか』と、気づきました。

そばやの主人は、先生のまごころのこもったかんばんを、かんとんにゆずってしまったこと、お礼をもらつて喜んでいた自分を、はずかしく思い、先生に心からおわびを言いました。
(おしまい)



次回⑧は、「うそはつけぬ」の紙芝居をご紹介します。お楽しみにしてください。